

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷一十五第

月一十年五十和昭

紀元二千六百年記念論文集

國際カルテルの形成と發展

靜 田 均

國內カルテルの形成が、同種産業部門における當業者間の激烈な過度の競争にその起因をもつこと、この激烈な過度の競争は典型的な過剰生産、換言すれば生産力と消費力との不均衡に基づくこと、そしてその背後に膨大な固定資本の重壓が横たはつてゐること等は、今日殆んど一般に認められた定説である、といつてよい。しばしば繰り返される如く、カルテルこそは『苦難の兒』なのである。同様のことは、國際カルテルについてもいひ得られるであらう。『カルテルをもつて「苦難の兒」となすことが正しければ、同じことは國際カルテルに對してより多く妥當する。一般に國際カルテルが形成されるのは、激烈な競争戦の揚句である』¹⁾ さうしてこの國際的な競争戦は、しばしば過剰商品のダンピングの形態をとつて現はれるから、國際カルテルの主たる原因はダンピングであるといつても過言ではない。

この點に關聯して一考を要するのは、關稅と國際カルテルの問題である。保護關稅が國內産業を哺育し、やがて輸出の必要を増大せしめること、或は國內における企業結合運動を幫助することは、國際カルテル形成のそもそもの素地をつくるものといへようが、こゝで指摘しておきたいのは、もつと端的な意味においてである。すな

1) R. Liefmann, International Cartels, Combines and Trusts, p. 79.

はち保護關稅の障壁は、生産者に國內市場の獨占を許すがゆゑに、國內價格は生産費および世界價格の遙か上位に決定される。このことは取りも直さず國內生産者に超過利潤を齎らすことを意味するが、それは同時にこの超過利潤を足場として過剰商品の海外市場へのダンピングを可能ならしめ、もしくは敢行せしめるわけでもあるのである。しかし、國內價格が世界價格プラス關稅以上に決定される場合には、容易に他の諸國からのダンピングに遭遇しうる。そこで同一の商品を相互にダンピングするといふ不合理極まる複雑怪奇な状態が発生する結果を來たす。さうして國際カルテルこそは、かうした不合理性を排除する最も合理的な手段であるといはねばならぬ²⁾。

國際カルテルの成立は、加盟諸國における經濟の一定の發展段階を前提とする。換言すれば、ある國における企業結合運動が成熟をとげると、やがて他の國々における同様の運動と結びつき、國際市場の統制によつて自己の地位を高めようとするに至る。國際カルテルの成立のためには、まづ國內カルテルが存在してゐなければならぬ。『國內カルテルは國際カルテルの出發點をなす』。同時に看過することを得ないのは、國際コンツェルンの形成が國際カルテルの成立を促進する、といふことである。『國際コンツェルンがカルテル化を遙かに容易ならしめることは、毫も疑ひをされぬ³⁾』。

すでに國內カルテルの形成においても幾多の阻止的モメントが見られるのであるが、國際カルテルの形成においては遙かにより多くの困難を伴ふことが、特に強調されねばならない。同様のことは、その存続に關してもいひうるところである。

2) Plummer, *International Combines in modern industry* 1938 p. 125.

Liefmann, p. 80-88.

3) E. Ertel, *Internationale Kartelle und Konzerne der Industrie*. 1930 S. 148.

Liefmann, l. c. p. 79.

國際カルテルの成立には、加盟諸國の當該産業が大差なき事情のもとにあることが必要であつて、この條件が充たされない限り、國際カルテルの成立は覺束ない。この間の消息を傳へる最も適當の例として、我々はかの石炭をあげることが出来る。石炭に關する國際カルテルの必要は、戦後各國の當業者に痛感され、また討議に附せられたところであるが、諸般の情勢はなか／＼その實現を許さなかつた。第一、各國における石炭礦業の發展段階にはいろいろの差等があつて、利害の一致を見ることは至難であつた。すなはちドイツにおいては、石炭部門が著しく組織化されてゐるのに、イギリスにおいては未組織のまま分散してゐた。その他各國におけるバーター制度、爲替協定、補助金、輸入制限等の發展は、一層國際石炭カルテルの成立を阻害した。かくて石炭に關する國際協定は、漸く一九三五年に至りわづかにイギリス・ポーランド間に成立したにすぎない。

生産條件に懸隔があり、従つてまた生産費に著しい差等あるため、特定商品の價格調節の企圖が阻止される場合多きことも、その實例に乏しくない。すなはち價格の低落を阻止し、または價格の吊上げを行はんがためには、滞荷を一掃し、そして減産に努めねばならぬわけであるが、低費用で生産しうるものはとかく生産制限をよるこばぬ傾向があつて、關係者間の商議は容易に妥結を見るに至らぬのである。

當該商品の輸出が國民經濟において有する意義の大小は、關係諸國の利害を不均等ならしめる基礎的事情であり、従つて國際カルテルの形成を困難ならしめる重要なモメントである。例へば亞鉛においては、ベルギー、ポーランドの輸出額は巨大であり、それゆゑにまた國際カルテルの形成並びにその圓滑なる運用に多大の熱意を有するに反し、イギリス、フランス、ドイツ等の生産者は輸出額が比較的少いから、國際カルテルにはそれほど切

4) Plummer, l. c. p. 130.

5) Plummer, l. c. p. 133.

實な關心をもたないのである。一九二八—二九年に有力な國際亞鉛カルテル結成の企が失敗に歸した主要の原因は、要するに關係諸國の利害の相違から業者が氣乗薄であつたためである。それは一九三一年、情勢が甚だしく悪化してから、はじめて實を結んだのであつた。

各國における法律の相違が國際カルテルの成立を妨げること、忘れられてはならぬ。しかし、この點はさきに一言したところであるから、もはや繰返す必要はないであらう。

國際カルテルの成立ならびに存続の困難は、以上に述べたところの如くである。しかし、それにも拘らず、國際カルテルの數は年と共に増加し、特に歐洲大戰以後において、國際カルテル運動は極めて活潑となつた。この戦後における國際カルテル盛行の原因は、何處に横たはつてゐるのであらうか。

まづ第一は、ベルサイユ平和條約が、戰敗國の領土の割讓にあつて、從來の統一的經濟領域を恣意的に分割し、經濟的に頗る不合理な國境と關稅障壁とを齎したといふことである。なかんづく民族白決主義を標榜せる新興國家の濺出は、右の矛盾を最も尖鋭化したものであつた。かくて戦前二一箇國七〇〇萬キロメートルの關稅線は、戦後二八箇國一一〇〇萬キロメートルを突破するに至つた⁶⁾。工業生産は販賣市場から無残にも切斷されたばかりでなく、新興群小國家はその名目的獨立國の尊嚴のため無理にも自給主義に走らざるを得なかつた。

第二に指摘しなければならぬのは、戦後一回にわたる過剰生産恐慌の襲來である。最初の恐慌は一九二〇年から一九二二年にかけてであり、次の恐慌は一九三〇年から一九三二年にかけてであつた。前の恐慌は戦時中激増した生産力と戦後における交戰諸國の貧窮化との所産であり、後の恐慌は合理化による技術的進歩、その結果た

6) Liefmann, Kartelle, Konzerne und Trusts. 1930 S. 186.

7) W. Seldis, Die Regelung der weltwirtschaftlichen Produktion durch internationale Kartelle in der Nachkriegszeit. 1936 S. 21.

る巨大なる生産力の發展と他方における購買力の不足との不均衡に基づくものであつた。恐慌を契機として世界市場における各國の競争が白熱化したことは、いふまでもない。それは他方における國際通貨制度の混亂と關稅の引上げと爾餘の新たな保護貿易政策の擡頭とによつてさらに拍車をかけられた。かくて國際カルテルによる局面の打開策が講じられるに至つたことは、當然の成行でなければならぬ。ひとびとは國際カルテルを、戦後における世界經濟の混沌と解體より免れる最後の避難所であると考へた。

この際特に附け加へておく必要のあるのは、政治的モメントの意義である。換言すれば、國際カルテルの成立にあたり、國家がしばしばその背後にあつて助産的役割を果すといふことだ。たとひ最初の動機が、民間業者の側から出たとしても、それが爲政者によつて取り上げられ、その斡旋によつて成立する場合が尠くない。すなはち時として、國家資本の參加してゐる企業が、國際カルテルの當事者たる場合があるのである。例へばドイツ、フランス間の加里カルテル、イタリー、スペイン間の水銀カルテル等の如し。また植民地原料生産物の國際カルテルにおいて、しばしば當該地方の政府が起動力乃至推進力として大きな役割を果してゐる。けだし、これらの有機的生産物にあつては、氣候の影響や統計の不正確や當業者の特殊事情等によつて、生産統制を行ふことが極めて困難であるから、民間の當業者のみに委しておいただけでは容易にカルテルは成立しうべくもないのに、價格の暴落は業者の破産・失業の増大・租稅收入の減少を齎らし、國民經濟の全體に廣汎かつ深刻な打撃を與へるからである。我々はこの適例を植民地生産物の生産制限および棚上げ政策に見出す。

最後に戦後における國際コンツェルンおよび國際トラストの發展が、國際カルテルの形成を側面から促進した

8) Plummer, p. 94.

9) F. Werr, Internationale Wirtschaftszusammenschlüsse und Staat als Vertragspartner. 1936 S. 105.

ことを見逃してはならぬ。すでに述べた如く、資本の集中は企業の数減少せしめ、國際的結合を容易ならしめるものであるが、とりわけ巨大コンツェルンにあつては、その活動の領域が傘下の子會社を通じて數箇國に跨つてゐるから、國際カルテル化の機運を醸成するうへに、預つて關係が深い。この種の事例は石油工業、電機工業、化學工業等にして、見られるところである。特にイギリスにおけるコンツェルン運動の發展は、同國の企業家をして大陸のカルテルに對する關心を強めしめ、その加入を促進したことを注意しなければならぬ。¹⁰⁾

國際カルテルは最近二十年たしかにその數を増した。しかし、産業部門を異にするによつて成立のうへに難易があることは、争はれぬ事實である。

リーフマンが一八九七年に四〇の國際カルテルをかぞへた時、その大部分は化學工業に關するものであつた。¹¹⁾特に最終生産物すなはち完成品に關するカルテルが多くて、原料カルテルや半製品カルテルは少數しかなかつた。かういふ状態は、今日といへども根本において變るところはない。しかしながら、これをもつて完成品工業部門にカルテルが成立し易いやうな特殊な前提條件ありと推論することは、いさゝか早計の譏りを免れぬであらう。最も重要な協定は、國際カルテルにおいても、國內と同じくやはり原料部門に見られるのである。國際カルテルが完成品カルテルに多いのは、世界貿易に投ぜられるこの種の商品の數が多いといふところから來てゐる。それは特に緩慢で分化しない生産技術の支配せる部門か、或は生産過程が特に固定資本を必要とし、従つて高度の生産危険と結付いてゐるか、或は資本の集中が進行し、少數の企業によつて統一されてゐる部門に多い。精巧品といつたやうな意味の完成品には、國內カルテルと同様に國際カルテルは成立し難い。機械よりも人間の手先

10) Ertel, l. c. S. 123-5.

11) R. Liefmann, Die Unternehmerverbände, 1897 S. 142.

の熟練に依存する部門、従つて統一的な費用水準および給付水準の缺けてゐる部門に國際カルテルの成立するこ
とは、稀である。¹²⁾

かくて國際カルテルの比較的成立し易い部門としては、原料に近い段階にあり供給の統制によつてアウト・サ
イダーの出現を阻止しうる産業(例へば鑛業、金屬工業、一部の化學工業)、大經營の利益が特に顯著に支配し、集中
の最も進行してゐる産業(例へば鐵工業、人絹工業、一部の化學工業)、特許權が重要な意義をもつ産業(例へば電機工
業、化學工業、固定資本の重壓の下にあつてしかも競争の激烈な産業(例へば海運業)等を指摘することが出来る。
これに反して織維工業、なかんづく機械工業の如きは、國際カルテルの最も成立困難な部門である。

二

國際的な企業結合運動が、國內的な企業結合運動より遅れて發達することは、容易に理解しえられるところで
ある。けだし、第一に國際的な企業結合は、國內的な企業結合を前提として始めて可能である。『國際カルテル
は、個々の國內カルテル間に協定が結ばれる時に至つて成立するものである。國際的な結合は、國內競争の結合
を前提にもつ。ゆゑに國內カルテルが進展すればする程、それに應じて國際協定もまた成長するわけである。』¹³⁾
第二に國際的な企業結合は、國內的な企業結合よりも一層多くの困難と障礙とに逢着せざるをえない。『經濟
的な國民主義や與れる國々における産業發達の相違や廣大な地域にわたつて有效な統制を行ふことの困難やのた
め、國際企業結合運動が、國內的な企業結合の成立および發展より遅れた』¹⁴⁾ことは、當然の當然であつた。
一八九七年に公にされたリーフマンの著書によると、當時ドイツの參加してゐた國際カルテルは約四〇に上つ

12) E. Ertel, l. c. S. 216-7.

13) B. Harms, Volkswirtschaft und Weltwirtschaft. 1912 S. 252.

14) A. Plummer, l. c. p. 3.

てゐた。しかし、三箇國以上加盟してゐるのは、軌條、銅、亜鉛、磷酸鹽、沃度、鏡、ダイナマイト等の國際カルテルだけであつて、他は殆んど二箇國間の協定にすぎない。まうして主たる相手國はイギリス、フランス、ベルギーおよびオースタリーの諸國であつた。¹⁵⁾これを要するに十九世紀末における國際カルテル運動は、やうやくその緒についたばかりであつたといつてよい。國際企業結合運動が本格化したのは、今世紀に這入つてからのことである。一九一二年ハルムスは、當時の代表的な國際カルテル一四について述べてゐる。その産業部門別内譯を見れば、左の如くである。¹⁶⁾

石炭、鑛石、金屬工業	二六	織維工業	一五	石材工業	六
化學工業	一九	窯業	八	電氣工業	五
交通運輸業	一八	製紙工業	七	雜	一〇

右は國際カルテルとして明確な存在を保つてゐたものゝ數であつて、紳士協定の類ひを含まない。しかるに當時、國際的な紳士協定はかなりの多數に上つてゐた、といふことである。もつて第一次世界大戰以前における國際カルテル運動の概貌を想見するに足りるであらう。以下極めて簡單ながら、國際カルテルの史的發展について概観を與へようと思ふ。

まづ問題となるのは、國際カルテルの起源、いひかへれば最も古い國際カルテルは何かといふことである。専門家の考證によると、一八六〇年のネッカー鹽カルテルをもつて嚆矢とせねばならない。¹⁷⁾それはバーデン、ヴンテンベルヒ、ヘッセの同業者間に成立したのであつた。一八七九年に結成されたルクセンブルグ・ローレーヌ鐵鑛カルテルの如きも、ドイツ鐵工業部門における最古のカルテルの一つである。

15) Liefmann, Die Unternehmervverbände. 1897 S. 142.

16) Harms, l. c. S. 250 ff.

17) Liefmann, International Cartels, Combines and Trusts, p. 42.

しかし、國際カルテルとして特に重要視さるべきものは、むしろ異なる關稅區域における企業者間の聯合組織でなければならぬ。この種の最初のものとしては、前世紀の七十年代に存在してゐた蒼鉛シンヂケートをあげる事が出来る。企業者の數が少かつたことは、このシンヂケートの結成を可能ならしめたのであつた。

一八八三年に成立した第一次國際軌條カルテルもまた、最も古い國際カルテルの好例といつてよい。否、むしろこれこそ『あらゆる國際カルテルの祖母である』(ハリナン)といつても過言ではないのである。主要幹線鐵道が竣工して、鐵道工事が一段落つげると、軌條は過剩生産に陥り、約十年の久しきにわたり激烈な競争が演ぜられた。そしてその結果、主要輸出國であるドイツ、ベルギー、イギリス三國の生産者間に國際カルテルが結成されたのである。ただし、當時における最も國際カルテルらしい國際カルテルであつたといへよう。略稱IRMAとして知られてゐる。協定の内容はイギリス本位であり、輸出額の六六パーセントがイギリスに割當てられ、ドイツが二七パーセント、ベルギー七パーセントであつた。この比率はむろん不満足なものであつたので、その後イギリスは幾分讓歩して六三・五パーセントとなし、ドイツ二九パーセント、ベルギー七・五パーセントと増額されたが、カルテル内部における不平は依然として除かれず、一八八六年つひに瓦解してしまつた。

その後一九〇四年にいたり、新たにフランスを加へて復活した。期間は三箇年であり、輸出額に對する割當比率はイギリス五三・五パーセント、ドイツ二八・八パーセント、ベルギー一七・七パーセントであつた。これに反してフランスは四・八パーセント、五・八パーセント、六・四パーセントと年々遞増することに定められた。この協定は期限の一九〇七年に更新されることなくして終つたが、一九一二年さらに三箇年の期限をもつて新しい協

定が成立した。この第三次協定について注目すべき點は、アメリカ合衆國が新たに參加したといふことである。

さうして割當比率はイギリス二三・六パーセント、ドイツおよび合衆國二三・一パーセント、ベルギー一一・一パーセント、フランス九パーセントであつた。しかし、歐洲大戰の勃發によつて間もなく崩壊した。¹⁸⁾

鐵工業部門においては、ほかにポルト及び螺旋、磁瑯鐵器の國際カルテルの存在が指摘される。最初の螺旋カルテルは、前世紀の九十年代においてドイツ、フランス、イギリスの製造業者の間に結成されたところの地域協定であつた。その後今世紀に這入つてから、價格協定を中心とする別箇のカルテルが成立した。磁瑯鐵器に關する國際カルテルは、前世紀の九十年代にドイツ・オースタリー間の企業者間に成立してゐたが、その後今世紀に這入つてベルギーが參加し、そして一九〇六年にはドイツ、オースタリー・ハンガリー、スウヰス、フランス、イタリー諸國を包容して、名實ともに歐洲カルテルの體裁をそなへた。それは價格及び取引條件に關する協定であつた。

鋼材、鋼管、線材、釘その他鐵鋼製品に關しても、戦前すでに國際カルテルが存在してゐた。これらのカルテルに參加したのはドイツをはじめオースタリー、ベルギー、イギリス等の諸國であつた。そのうちで最も重要なものは鋼管カルテルである。一九〇六年ドイツ、オースタリー、イギリス、アメリカ合衆國間に成立した。

非鐵金屬に關する國際カルテルとしては、一八八五年以來、亞鉛カルテルがあり、その他銅、鉛のカルテルがあり、またこれら金屬よりなる半製品および完製品のカルテルもあつた。特に興味をひくのは、アルミニウムのそれである。最初の國際アルミニウム・カルテルは一九〇一年に成立、フランス、イギリス、スウヰスが參加した。それはヘルート特許權の共同利用を基底とし、價格協定、生産制限を行ひ、一時價格の騰貴を見たが、しか

18) Notz, International private agreements in the form of cartels, syndicates, and other combinations, Journal of Political Economy, Vol. 28 Nr. 8 1920 Oct. p. 658.

しそのために却つて崩壊の氣運を早めた。一九〇八年アメリカ合衆國の北アルミニウム會社と歐洲側との間に地域協定が成立したが、シャーマン法に觸れて、一九一二年に廢棄された。¹⁹⁾

鑛業方面の國際カルテルに至つては、極めて多數存在した。すでに前世紀の九十年代において、ドイツとオースタリー、スウヰス、ベルギーとの間に、セメントに關する協定が成立してゐた。その後一九〇五年には、イギリス、フランス、ベルギー、スカンデナビア諸國を包含する一大國際カルテルが結成された。

しかし、この部門におけるカルテル中最も強固なものは、鏡の生産及び販賣に關する國際カルテルであらう。

それは一九〇三年フランス、ベルギー等の大規模生産者のイニシャティヴのもとに創設されたのであるが、最初の生産制限カルテルとして有名である。一九〇四年本格的なシンデケートとなり、Convention Internationale des Glaceries と改稱。ブラツセルに本部を置いた。五箇年が期限であつたが、その後更新された。協定違反に對しては、峻嚴な制裁が加へられることになつて居り、加盟三主要國のそれ／＼に三つの主要市場が割當てられた。生産および販賣に關するあらゆる統計が、本部に通報された。このカルテルにおいて當業者間に緊密な協同行はれたのは、フランスおよびベルギーの支配下にある比較的少數の工場に企業が集中してゐたためである。²⁰⁾

一九〇七年に成立した歐洲硝子瓶カルテルは、主としてオウエン特許權の共同利用のために結成されたものであるが、ベルギー、スカンデナビア諸國、ドイツ、イギリス、オースタリー、フランス等の参加を見、極めて大規模な且つ典型的な國際カルテルであつた。しかも勞働者や小生産者に大きな打撃を加へずに、産業發展に巨歩を進めたことは、特筆に値する。

19)

20) Liefmann, I. c.

化學工業部門における國際カルテルの数は、極めて多い。特許權を中心とする強固なカルテルが存在したことは、いふまでもないが、シンヂケート組織の強固なカルテルが少くないことを注意しなければならぬ。例へば蒼鉛、硼砂、カーバイト、醋酸、火薬等のシンヂケートの如し。曹達、過磷酸鹽、タンニン、染料、藥品等に関する國際協定はドイツを中心として成立してゐた。なほ異色ある存在としては、國際膠カルテル、國際絹糸染色業者聯合會、國際ベンゼン・カルテル、歐洲石油聯盟等をあげることが出来る。²¹⁾

電機工業部門においては、一九〇三年に成立した國際電球カルテルにまづ指を屈さねばならぬ。それは販賣數量の割當、最低價格の協定を内容とするものであつて、ドイツ、オランダ、スウヰス、オースタリー、ハンガリー、イタリー、スウエーデンの多數同業者を網羅し、歐洲生産額の九〇パーセントを統制した。

最後に國際カルテルとして忘れてならぬのは、海運業におけるコンファレンスである。一九一三年に發表された合衆國の一調査によると、當時約八〇の海運に關する國際協定が存在したことを報告してゐるが、その大多數は一八九〇年代に成立したものだ、といふ。最初の海運同盟は一八七五年に作られたカルカツタ・コンファレンスであるが、運賃延戻制が採用されるやうになつたのは、一八七七年であつた。さうしてその後幾多のコンファレンスが相ついで形成されたのであるが、始めのうち殆んどイギリスだけに限られてゐた。²²⁾しかるに大陸航路が發展するに及んで、國際間の競争は次第に激化し、運賃戦は猛烈を加へざるをえない。けれども企業の間には、當業者ならびに關係國政府筋の歡ばぬところであつたから、いきほひ國際協定によつて危機を切り抜けようとする外はなかつた。かくて一八九二年には、有名な北大西洋汽船聯合會が結成された。それにはドイツ、オラ

21) Harms, l. c.

22) Plummer, l. c. p. 67.

ンダ、ベルギー諸國が參加し、北アメリカ行乗客の割當を行ひ、最低運賃を協定した。ついで一八九四年には貨物の割當を行つた。

モルガン系のインターナショナル・マーカンタイル・マリン會社は一種の國際海運トラストであつて、その傘下に多數の汽船會社を包容してゐたが、今世紀に這入るや系統外のドイツおよびイギリスの汽船會社と協定を結んだ。さうしてそれはより以上の結合運動に新しい出發點を形づくるものであつたが、同時に激烈な競争に對する出發點を意味するものであつた。

一九〇八年アルベール・パリンの盡力によつて大西洋コンファレンスが開かれ、四つの協定が締結された。それは歐洲諸港とアメリカ合衆國およびカナダ間の航路を統制するものであつて、アメリカ合衆國、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、カナダ、オランダ、ベルギー諸國を網羅するところの最も包括的な且つ獨占的な協定であつた。この協定は一九一一年に更改された。

一九〇九年に成立した地中海コンファレンスもまた有名である。ドイツ、オースタリー、イギリス、アメリカ合衆國、イタリア、フランス、スペイン諸國が參加し、南歐航路を統制した。

三

戦後における國際カルテルのうち、なかんづく注目すべきものは、一九二六年九月に成立した國際粗鋼カルテルである。戦時中各國の鋼生産力は、飛躍的に増大したに拘らず、戦後鐵鋼の需要は不振を極めた。生産力と消費力との矛盾に基づく過剩商品の激成が猛烈な輸出戦を展開したことは、いふまでもないが、新しい關稅障壁の

設定と鐵工業地域の國際的編成替とは、右の鬭争を一層拍車づけた重要なモメントであつた。すなはちローレーヌのフランスへの移譲によつて、ドイツは國內鐵資源の八〇パーセントと幾多の新式製鋼設備を失つた、ルクセンブルグがドイツ關稅同盟から離れ、また上シレジアにおける製鐵工業の三分の二がドイツから離れた、石炭と冶金工業とをもつて聞えるザール地方が、十五箇年間フランス關稅同盟に移された、等々。

最初、國際粗鋼カルテルに加入したものは、ドイツ、フランス、ベルギー、ルクセンブルグの四箇國であるが、翌年オースタリー、チエツコ・スロバキア、ハンガリー等中歐諸國が加入し、少しおかれてユーゴ・スラビアが參加した。國際粗鋼カルテルは生産制限を目的とするところの生産割當カルテルであり、割當と生産實績との偏差に對しては、罰金ならびに補償金制度が設けられた。存續期間は五箇年であつたが、一九三〇年の世界恐慌により、満期前すでに殆んどその機能を停止した。その後一九三三年に至り、新しい國際粗鋼カルテルが成立した。

新カルテルのメンバーはドイツ、フランス、ベルギー、ルクセンブルグであり、チエツコ・スロバキア、オースタリー、ハンガリーは正式に參加せず、また歐洲における主要輸出國であるイギリスおよびポーランドはアウト・サイダーとして止まつた。しかし、その後イギリス、ポーランド兩國とも參加し、一九三八年にはアメリカ合衆國との間に紳士協定が結ばれた。新國際粗鋼カルテルは輸出割當カルテルであり、國際輸出版賣シンヂケートを組織し、均一價格制をしいた。存續期間は五箇年、一九三八年さらに二箇年間延長された。

なほ鐵工業部門における戦後の國際カルテルとしては、同じく一九二六年に成立した國際軌條カルテル（IRMA）、國際鋼管カルテル（IRK）、一九二七年に成立した國際綠材カルテル等がある。²³⁾

23) Seldis, l. c.

戦後の世界經濟が多くの部門において、膨脹せる生産力と縮減せる消費需要との大きな乖離に悩み、價格の激動に曝らされたことは、いふまでもないが、銅もまたこの例に洩れない。戦後五年間減少を續けた消費は、一九二三年以降年々回復に向つた。が同時に技術の進歩によつて、生産額も増加の傾向を辿つたので、需給關係は改善されることなく、却つて反動安の状態を示した。そこで一九二六年十月國際銅カルテルが成立した。このカルテルは、有力なメンバーとしてアメリカ合衆國の多數企業を包容してゐる點で顯著なる特色をもつ。主として精銅の販売統制であり、注文の割當を行ふけれども、生産制限をするか否かは、生産者の自由に委ねられてゐる。銅カルテルは各メンバーの販売機關を通じて加工業者にのみ販賣し、中間商人の投機的取引を排除することによつて、價格の安定をはからんとするものである。參加國はベルギー、ドイツ、アメリカ合衆國、メキシコ、スペイン、ユーゴ・スラビア。國際銅カルテルはヤンキー式の價格吊上政策をとり、一時それに成功をおさめたが、世界恐慌の重壓にあひ、一九三一年に崩壊した。

しかるに世界における銅の生産關係は、一九二九—三二年にいたく變化した。それはコンゴ、ロヂシア、チリ等新興の産銅國が據頭してきたからである。かくて一九三五年國際銅カルテルは再組織された。しかし、アメリカ合衆國は新しいカルテルに加つてゐない。

一九三一年に成立した國際錫カルテルは生産割當協定を中軸とする。參加國は英領マレイ、ニヂエリア、蘭領東印度、ポリビアの四箇國で、世界生産高の八〇乃至九〇パーセントを統制下においた。一九三三年新協定成立、一九三四年佛領印度支那その他多數諸國が新たに參加した。一九三五年より輸出割當制を實施。國際錫カル

24) W. Oualid, International Raw Materials Cartels. 1938 p. 34-38.
25) Plummer, l. c. p. 112.
26) C. Lammers, Internationale Industrie-Kartelle. 1930 S. 32.

テルは國際原料カルテルのうちでも比較的的成功せる事例に屬する。

國際鉛カルテルは一九二八年に成立。一九三二年改組された。この新しいカルテルはイギリス帝國、蘭領東印度、メキシコ等を包容するが、アメリカ合衆國および歐洲諸國は参加してゐない。

アルミニウム工業はカルテル結成に好都合な諸事情に恵まれてゐる。第一、生産者の數が少いといふこと。けれどし、アルミニウム工業にあつては、原鑛たるボーキサイト鑛山の買収および採掘、製鍊のための加工設備、莫大なる電力需要等のため、巨額の固定資本を投下せねばならぬ關係上、大經營にしてはじめて可能だからである。第二に、製品の品質がほぼ均等で差等が少い。第三に價格が高いのに重量軽く、輸送に多くの費用を必要としない。第四に若い新興産業であつて、技術の發展が急速で停滯を許さないから、生産力は不斷に増進の傾向を辿る。およそこれらの諸事情は、アルミニウム工業における競争を激化し、カルテル結成に導く主要モメントである。戦後最初の恐慌によつて困難に陥つたアルミニウム工業は、一九二六年にいたつて歐洲當業者間に協定を成立せしめた。それは(1)販賣數量の統制、(2)用途の擴大増進、(3)一般費および輸送費の軽減、(4)基準價格の決定等を内容とするものである。最初参加したのはフランス、イギリス、ドイツその他歐洲諸國であり、アメリカ合衆國は参加しなかつた。従つて世界アルミニウム工業の四六パーセントを統制するにすぎない。その後一九三一年にカナダが参加した。このカルテルはだいたいにおいて好成績を傳へられてゐる。

水銀に關しては、一九二八年スペインとイタリーとの間に、國內市場の確保、海外販賣の組織化について協定が成立した。即ちロンドンのルーラ・エンド・フォーガス商會を輸出總代理店とし、仲介商人の手を経ることなし

に直接消費者に販賣せしめるのであり、販賣の割當比率はイタリー六〇パーセント、スペイン四〇パーセントであつた。右の結果、歐洲における水銀價格は一時全く同カルテルによつて決定された。滞荷一掃のため原鑛の採掘を制限した。それは價格の立直りを齎らしたとはいへ、アウト・サイダーの鑛山における生産増加に導いた。即ちアメリカ合衆國およびメキシコの生産が激増したに反し、需要は却つて減少したのみならず、代用品の擡頭も加つて、價格は暴落。かくして國際水銀カルテルは一九三六年に崩壊した。

國際加里シンチケートも、戦後における注目すべき國際カルテルの一つである。加里鹽の採掘ならびに販賣が、佛獨ともに國家の直接の統制下にある單一巨大企業の手集中されてゐることは、カルテルの結成を容易ならしめた主要モメントに外ならない。一九二四、五年ごろ、紳士協定によつて佛獨兩國の間に輸出市場における共同動作に關する原則が確立された。一九二六年末、市場分割協定が成立。それ／＼國內市場を確保し、特にフランスは植民地を確保することになつた。輸出市場では協定價格を遵守し、フランス三〇パーセント、ドイツ七〇パーセントの割合で販賣。ひとところソヴィエト・ロシアおよびスペインが競争者として現はれ、ベルギー、オランダにおいて激烈な價格戦が行はれたが、一九二八年にスペインが加入し、一九三二年にはポーランドが加入した。かくしてシンチケートは、世界生産高の八一・三パーセントを統制するに至つた。

磷酸鹽の國際カルテルは、一九三三年成立した。世界生産高の七、八〇パーセントを統制する。

世界における窒素肥料の供給は、チリ硝石と歐洲の合成窒素肥料とによつて二分野を劃してゐる。窒素工業が戦時中驚異的發展をとげたのは、要するに軍需工業としてであるが、戦後における肥料工業への轉換は、合成窒素肥料の過剰生産を招來せざるを得なかつた。巨大生産國はイギリス、ドイツ、ノールウェーの三國であるが、一九二

五年以降フランス、ベルギー、オランダ、イタリー等の諸國においても、その生産がかなり増加した。かくて一九三四年國際ラゾート會社が設立され、パーゼルに本部をおいた。一九三五年チリとCIAとの間に協定が成立した。

電球工業においては、企業集中が發展し、世界を通じて生産者の数が少い。しかも日に新たなる技術的・科學的進歩は、生産力を急激に増大せしめ、過剰生産はひいて激烈なる價格引下の濫賣戰を演ぜしめた。かくて一九二一年ドイツおよび中歐諸國の電球生産者とオランダおよびスウェーデンの電球會社との間に國際價格協定が成立した。その内容は地域の分割、確定價格、取引條件等に関するものである。翌年アメリカ合衆國のデュネラル・エレクトリックとドイツのオスラムとの間に、特殊な重要性をもつた友誼的協定が締結された。これはパテントおよび研究實績の交換、獨占的販路の割當を内容とするものである。かうした國際的な結合運動は、一九二四年末つひに『國際電球工業の發展および改良のための一般的協定』を結實せしめた。それはカナダとアメリカ合衆國とを除いた世界の主要電球生産者を網羅したもので、二十七箇國にまたがる。目的は電球使用の増進、電球の種類、統制、無用なる重複の省除、品質改善に関する製法の研究、検査所の設立等々。フェーブス會社を組織し、中央執行機關たらしめる。

アメリカ合衆國の會社はこのカルテルに直接加盟してゐない。しかし、それは國際關係に超然たることを意味するものではない。その勢力は國境を越え、遙かの彼方に及ぶ。合衆國最大の電球生産者であるデュネラル・エレクトリックの國際的關心は、國際デュネラル・エレクトリック會社の手中にある、さうして後者は、ドイツ、オースタリー、オランダ、ハンガリー、フランス、イギリス、日本等多數の外國會社と株式所有や協定を通して

關係をもつ。それは海外に支店をもち、また他の諸團體を部分的に統制する。²⁸⁾

一九三〇—一九三一年の國際農業恐慌を契機として、多くの國際協定が成立したことは、特筆に値する。²⁹⁾ 茶に關しては一九三三年印度、セイロン、蘭領東印度の間に協定が結ばれ、五箇年を期し、輸出の縮減、新規作付の禁止等を行ひ、その結果、價格變動の振幅を狭めることが出來た。同じく一九三四年ゴムに關する國際協定が成立した。英領マレイ、蘭領印度、セイロン、印度、ビルマ、北ボルネオ、サラワク、シヤムの諸箇國が參加。加盟諸國の生産に對し、基準割當を設け、これに基づいて四半期毎に輸出許可率を決定するのである。國際農業恐慌の中軸である小麥に關しては、一九三三年アルゼンチン、カナダ、オーストラリア、合衆國等の四大輸出國をはじめ、總計二十二箇國が參加することによつて國際小麥協定が成立した。それは四大輸出國の小麥輸出品を制限せんとするものであり、カナダ、アルゼンチン等では作付反別の減少を見たが、全體としての成績はあまり顯著なものではなかつた。砂糖に關しては一九三一年有名なチャドボーン協定が成立。キューバ、ジャワ、ドイツ、ポーランド、チュッコ、ハンガリー、ベルギーが參加し、少しおかれてペルーとユーゴ・スラビアとが參加した。目的は砂糖の過剰ストックを縮減し、價格を高めるにあつたが、成功するに至らず、一九三五年協定は廢棄された。一九三七年新國際砂糖協定成立、二十二箇國が加盟したが、これは輸出の制限を企圖するものである。最後に海運業に關しては、國際油槽船ブル、不定期船主間のリバー・プレート穀物積取協定等の特殊な國際協定が存在するが、特に著名なものは、一九三七年に成立した國際海運同盟である。イギリス、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ユーゴ・スラビア、オランダ、ノールウェー、スウェーデン、スペイン等十二箇國の代表者によつて組織され、不定期船の寄航に關する競争の調節、最低運賃、海員の賃銀標準、勞務條件に關して協定を行つた。³⁰⁾

28) Plummer, l. c. p. 86. Lammers, l. c. S. 95.

29) Plummer, l. c. p. 118.

30) Plummer, l. c. p. 70.